

Press Release

18 January 2012

国際交流基金 ロンドン 日本文化センター 企画
国際交流基金 巡回映画上映会
 (The Japan Foundation Touring Film Programme)

**Whose Film Is It Anyway?
 Contemporary Japanese Auteurs**

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、優れた映画作品を通して日本文化を紹介すべく、2003 年より毎年テーマを決めて、英国各地の専門機関との共催で日本映画の巡回上映を行っています。

9 回目に当たる今年は、“シネマオリジナル脚本を使った現代日本の映画”をテーマに、2000 年以降に制作された作品で監督が原作/脚本を手がけた秀作 9 本を集め、ロンドン、シェフィールド、エジンバラ、ベルファースト、グラスゴー、ブリストル、ノッティンガムの 7 都市で上映会を実施いたします。ラインアップには、『Shall we ダンス?』で世界を沸かせた周防正行監督の、日本の司法制度に疑問を投げかける問題作『それでもボクはやってない』や、デビュー当初から一貫して自ら作品の原案、脚本書きを行ってきた西川美和監督の『ディアドクター』、自身のうつ病の体験を映画化した橋口亮輔監督の『ぐるりのこと。』、そして将来を期待される内藤高嗣監督の『不灯港』などが含まれ、漫画や小説をベースとした映画が氾濫する日本の映画産業の中で、オリジナルストーリーを通してメッセージを伝えつづける、キャリアも手法も異なる多彩な監督の作品をお楽しみいただけます。

上映作品：

- 「それでもボクはやってない」（監督：周防正行、2007 年）
- 「ディアドクター」（監督：西川美和、2009 年）
- 「おとうと」（監督：山田洋次、2010 年）
- 「運命じゃない人」（監督：内田けんじ、2005 年）
- 「不灯港」（監督：内藤高嗣、2009 年）
- 「まぶだち」（監督：古厩智之、2001 年）
- 「ぐるりのこと。」（監督：橋口亮輔、2008 年）
- 「ネムリユスリカ」（監督：坂口香津美、2011 年）
- 「闇打つ心臓」（監督：長崎俊一、2005 年）

* 全て英語字幕付

* 上映作品・回数は会場によって異なります。

上映スケジュール：

2012 年 2 月 10 日～2 月 16 日	Institute of Contemporary Arts(ICA) (ロンドン)
2012 年 2 月 17 日～2 月 23 日	Showroom Workstation (シェフィールド)
2012 年 2 月 24 日～3 月 1 日	Filmhouse (エジンバラ)
2012 年 2 月 28 日～3 月 27 日	Glasgow Film Theatre (グラスゴー)*火曜日のみ
2011 年 3 月 2 日～3 月 5 日	Queen's Film Theatre (ベルファースト)
2011 年 3 月 14 日～3 月 25 日	Watershed (ブリストル)
2011 年 3 月 23 日～3 月 28 日	Broadway (ノッティンガム)

周防正行監督、坂口香津美監督 来英決定！

周防正行監督(「それでもボクはやってない」)ならびに坂口香津美監督(「ネムリユスリカ」)が、ICAでの作品上映時の挨拶と質疑応答に登場します(坂口監督は Showroom Workstation での上映にも参加)。

また両監督による特別トークも行います。

<周防正行監督特別トーク>

2012 年 2 月 9 日 18:30～

<坂口香津美特別監督トーク>

2012 年 2 月 13 日 18:30～

いずれも会場は国際交流基金ロンドン日本文化センター。

10-12 Russell Square, London, WC1B 5EH

参加費無料。事前の予約必要。申し込み先: event@jpf.org.uk

本件につきまして掲載をお願いいたします。

お問い合わせ:

国際交流基金ロンドン日本文化センター (担当: 竹川 junko.takekawa@jpf.org.uk)

Tel: 020-7436-6695 Fax: 020-7323-4888

情報については www.jpf-film.org.uk もご覧ください。

Notes to editors:

- The Japan Foundation, founded in 1972, is Japan's principal agent for cultural relations between Japan and overseas countries and exists to promote a wider knowledge of Japan abroad and to promote mutual understanding between nations.